NPO法人
国際造園研究センター会報
No. 1
2004
11月 発行

定員オーバーでうれしい悲鳴をあげた 庭づくり入門講座

平成15年初夏に実施を決定した庭づくり講座は毎回、定員オーバーの盛会を重ね、この11月末の第7回をもって終了する。講座内容、講師の先生方などを表にまとめてご報告するとともに、講座のリーダーとしてご尽力いただいた庭園部会吉田昌弘部会長に「この1年」を振り返っていただいた。

昨年（平成15年）9月に開講して以来、1年余りが経ちました。

3月ごろから数回にわたってこの講座の企画について話し合っていました。杉井明美さん、福原成雄さん、田中明男さんとの4人でしたが、私は少々不安でした。

講義と見学・解説をセットにする方法であれば、ある程度は魅力のある講座になるとは思いましたが、短い時間で庭園の見どころ、魅力などについて本当に理解していただけるのか、興味を持っていただけるのかということでした。

第1回の「池泉の庭」を開講したとき、その不安は払拭されました。参加者の皆さんが熱心で、多くの方から「次も参加します」という言葉を頂いたからでした。また、講師の先生をはじめ、様々な方が支えてくださいました。武田純さん、福地淳二さん、平木信行さんらの現地見学での解説、会場の段取りなどでは辻井博行さん、その他多くの方々です。

確かに、残念に思う点や問題点もいくつか挙げられます。第4回の「露地」では雨天のため、せっかくの表千家の露地を実際に歩いて観察し、風情を体感（露地では不可欠なのですが）できなかったことです。第5回の「坪・平庭」では時間不足もあって現地解説や説明がほとんどできなかった。大いに反省すべきことと思っています。また、有難いこととは言え、定員オーバーを認めたことが連絡作業などの繁忙を増幅し、事務局担当の松田麻里さんに大変ご苦労をおかけしてしまったことです。

第7回の「植栽の技法と管理」は11月23日、知恩院。実際に樹木を剪定する方の話しなども盛り込みたいと考えています。これで予定の入門講座は終了することになります。

多くの方々から「今後も続けてほしい」というご要望をお聞きしました。目下ご希望に添う方向で検討しており、来年にも具体的な内容がお知らせできればと考えています。

最後に私見ですが、この講座への参加の輪を広げるとともに、活動のコアとなるグループを形成して企画・運営の充実を図り、将来的には恒常的な研究会に発展できれば、と望んでいます。

碧雲荘にて

■庭づくり入門講座のあらまし

講座名	内　　容	見学場所	講　　師	開催日	参加人数
序	スケジュール説明と 庭の見方と楽しみ方について	●白沙村荘庭園		H15/ 6/15（日）	20人
第1回「池泉の庭」	寝殿造りの庭園から 近代の池泉の庭について、 構成と特色　～通史～	●天竜寺庭園	吉田徳治 大阪テクノホルティ園芸専門学校名誉教授	H15/ 9/21（日）	46人
第2回「枯山水の庭」	枯山水庭園の思想と表現 ～石組の意図と構成～	●龍源院庭園●大徳寺本坊方丈庭園●聚光院庭園ほか	近藤公夫 奈良女子大学名誉教授 福原成雄 大阪芸術大学助教授	H15/11/30（日）	58人
第3回「廻遊式庭園」	廻遊式庭園の空間構成と細部の技法 ～滝、流れ、池、島、築山～	●野村別邸碧雲荘 ●無鱗庵	尼崎博正 京都芸術大学教授、日本造園研究センター所長	H16/ 1/27（火）	53人
第4回「露地」	茶庭の構成と特色 ～飛石、つくばい、詳細な植栽等～	●表千家（不審庵）	小野陽太郎　作庭家、武道家、京都芸術大学客員教授	H16/ 3/22（月）	58人
第5回「坪、平庭等」	町屋の坪庭、平庭に特色 ～建築と庭の細部デザイン～	●杉本家（町屋、指定文化財） ●四君子苑（数寄屋）	吉田昌弘（株）空間創研代表取締役	H16/ 5/23（日）	42人
第6回「素材と技法Ⅰ」	石組、護岸石組、石積、延石、石造美術品	●律院庭園●旧竹林院庭園 ●滋賀院ほか	福原成雄 大阪芸術大学教授	H16/ 8/ 1（日）	53人
第7回「素材と技法Ⅱ」	植栽の技法と管理～全体の総括～	●知恩院ほか	吉田徳治	H16/11/23（祝）	―

校庭芝生化を妨げているものは何か?!
具体例をもとに検討会が開かれた

8月17日（火）午後3時から服部緑地都市緑化植物園講習会室で校庭芝生化検討会が開かれた。提供された題材は、堺市立錦綾小学校で実施されたばかりの1,700m²のグラウンド。市側の施工の決定、施工着手までにどのような問題が浮上し、それをどう解決していったのか?具体例を俎上にした検討会には行政の担当者、造園業関係者ら40数名が参加した。

堺市からは計画を進めた教育委員会の総務部施設課 油野辰夫課長が出席。環境設計（株）中橋文夫設計室長、南海造園土木（株）辻正信代表取締役の両氏は設計施工の担当責任者として同席した。コーディネーターは（社）大阪府公園・都市緑化協会の三浦頼彦理事長。まず、油野課長の経過説明から始まった。

どこが所管すべきか?誰が管理するのか?

油野課長にとっては立場上、あまり話したくない内容であったろう。真っ先に問題になったのは、市としてどの部門が担当すべきなのか。所管の問題である。学校施設であるから市教委だという説と、緑化活動であるから公園緑地部だと主張する側の、いわば「押し付け合い」である。所管するとなればメンテナンスも含まれてくることは言うまでもない。

救いは校区の先輩たちだった!

錦綾小は市役所のすぐ北側、旧市街地の中心部に立地する伝統校である。周辺住民の中には卒業生も多く、町内会や自治会などの地域の世話役を勤める人も少なくない。「子どもたちのためになるなら」という好意的に受け止めてくれる素地があった。

半年を越える調整の結果、一応は市教委の所管とし、メンテナンスは地元の人たちと子どもたち、父兄、学校の教職員に委ね、市教委はこれに協力し、必要に応じて補助するという形で収まった。

どうすれば校庭の芝生化はすすむのか?

環境緑化新聞の調べによると、2002年11月の時点で校庭を芝生化している学校は全国で31校。うち5,000m²を越える学校は3校。100m²～300m²が3校。100m²以下の学校も2校ある。その後、芝生化した学校もあるから、現在はもっと多いだろう。

しかし、公私立を併せて全国に学校は何校ある?グラウンドの緑化率は何%になる?

筆者は検討会に出席してつくづく思った。芝生の校庭というとみんな揃って緑の絨毯を思い浮かべているのではないか。プロの選手が駆けるサッカー場のような。或いはゴルフ場のグリーンのような。だから「そんなの大変だ」と。

本来、学校にはそんな立派なものはいらない。環境に適した強い品種の芝を選び、自然に育成させればよいのではないか。草丈の伸びすぎや多少の擦り切れなどには構わない。児童生徒が活発に遊べればそれでよいのではないか、と。（文責藤田）

芝生化したグラウンドで遊ぶ子どもたち（錦綾小）

校庭緑化に使用できる芝草の種類

（財）関西グリーン研究所 前第4研究室長　前窪　伸雄

学校の場合は専門家による十分な管理ができないと考え、粗放な管理でも芝生になる品種を探さねばならない。条件をあげてみると、

①常に踏まれるもので、踏まれても傷みにくい、傷んでも回復が早いか、または年中回復力があるもの。
②刈り込み作業が少なくて済むように草丈が低いもの。
③暖地型芝草を選ぶ場合は冬期も成長する寒地型芝草と組み合わせる。
④病害虫、藻、苔に強いもの。雑草は芝の仲間と考える。
⑤夏の旱魃に耐え、冬の寒さに耐えるもの。

種類として列挙すると次のようになる。
中芝、或いはノシバとコウライシバの中間型シバ。ティフドワーフ。センチピードグラス。セントオーガスチングラス、カーペットグラス。カウグラス。バヒアグラス。ダリグラス（常緑）。シーショワパスパルムなどの暖地型。寒地型として最適なのはアニュアルブルーグラスで、一度播けば毎年種を落としてくれる。

清水理事長のイエメン親善旅行を足がかりに

進展させたい日本庭園の作庭計画

日本・イエメン友好協会（事務局：東京都中央区日本橋3-4-4）理事長を務める清水正之夫妻は2月19日から10日間、同協会主催の訪問団長として首都サナア市やスコトラ島を訪問。スコトラ島では訪島中のサーレハ大統領との会見や、日本語を学ぶ若い人たちとの交流、理事長夫人によるお茶会、作法紹介など、イスラム圏の人たちとの親善に尽くした。

イエメンは産油国ではないためアラブ諸国の中でも最貧国とされているが、かつては海のシルクロードの要衝として栄え、現在では「アラブ人の心の故郷」といわれるほど豊かな自然を残している。特にスコトラ島ではあちこちで竜血樹が見られ、200種にのぼる固有の植物、九十九折の山道や滝がある。

理事長は「とにかく魅力的で海辺、自然が美しい。滝、みどりに覆われた高い山があって最高に快適な島」と語り、「すばらしい景観や希少植物など、この島の保全が何よりも重要」と現地アル・サウラ紙のインタビューに答えている。

理事長が初めて訪問したのは25年前、南北分裂時代の北イエメンであった。浅からぬ縁につながるこの国で今、日本庭園の設計話が持ち上がっている。当センターとしては難問とされる資金不足を克服して、より具体的な計画に進展させたいものである。（文責藤田）

国際日本庭園協会・ビュージェットサウンド日本庭園協会主催

第4回 日本庭園国際シンポジウムで「荒木芳邦の世界」を講演

8月28日、ワシントン州シアトル市で開かれたシンポジウムで当センター会員の（株）荒木造園設計（荒木美真社長）が約1時間にわたって故荒木芳邦氏の5作品とその世界を紹介。映像を示しながら作庭の思想や独自の技法について述べ、故人の次のような持論を披露して講演を締めくくった。

「海外における日本庭園は周辺の空間と融合しないものが多い。異国趣味や、間違ったオリエンタルの認識でパッチワークのように日本庭園をはめこむからである。（中略）その国の文化、風土、環境に溶け合う空間を日本の造園デザインの精髄をこめて作り上げる。伝統的な「縮景」の技法もハンブルグで活かそうとすれば、＜ハンブルグの縮景＞にならなければ意味がない」と。

日本とアメリカで1年おきに開催されてきたシンポジウムの今回のテーマは「日本庭園の進歩とその適応性を探る」であり、「海外で育った日本人は、日本庭園に対して、日本で育った日本人と同じような評価をしているであろうか」などの質問をあらかじめ用意し、内外の研究者や日本庭園に関心を持つ約200人が3日間にわたって熱心にワークショップなどに取り組んだ。

なお、同シンポジウムの後援団体は、日本万国博覧会記念機構・ワシントン州立大学・シアトル市公園局。

松剪定の実践的研究について

（株）田中造園土木代表取締役
田中　明男

歌にも詠われた「高師の浜」は明治6年の太政官布告により浜寺公園となり、現在ある約5,500本の松は「名松百選」に選ばれています。わたしたちに快適なレクリエーションの場を提供してくれているこの松林を守り、どのように後世に伝えていくのか。造園に関るNPO国際造園研究センターの責務であると考えます。

平成15年5月、会員有志が現地に集い、公園事務所のご協力を得て園内の樹林を観察するとともに、地元の造園業に携わる人から近年の公園の変遷や樹木管理の経緯を教えてもらい、改善すべき点などについて討議しました。

7月には大阪府の協働事業案の応募に向けて「未来への継承・浜寺公園松林ルネサンス」と題する事業概要を整理、12月には当社が公園事務所から松の剪定の依頼を受け、これを契機に「現場での実践を試みたい」と申し出ました。

好意的な対応をいただいて16年1月、寒風吹きすさぶ中で見本切り（試験選定）を実施しました。かねての取り組みの結果を示す場であり、将来の樹形を設定した上で、経年の剪定に対応する切り戻しすかしの手法を用いました。いわば「浜寺透かし」を目指したもので、お集まりいただいた清水理事長や会員諸氏に評価をしてもらいしました。

松の剪定の解説（浜寺公園）

かなりの大枝も切り落とすなど、従前の間引き的な剪定とは趣の異なったものでしたが、樹林の育成と景観の向上保持に的確と評価され、以後、約120本の松を剪定しました。

後日、（社）大阪府公園・都市緑化協会から「浜寺公園松の維持管理手法検討シンポジウム」開催への協力要請があり、3月30日、解説を交えながらの見本切りと、切り枝を示してディテールを説明しました。

降りしきる雨にもかかわらず70名を越える参加者があり、引き続いて開かれたシンポジウムではNPOとしての取り組みと現場からの報告をし、討議をしました。

プログラムは始まったばかりで、現時点では最善と考えられる剪定手法を示したものです。更なる検討の欠かせないことを感じながら今回の報告とします。

第3回理事会からのご報告

8月19日(木)午後3時30分からセンター会議室で清水理事長ほか11名による理事会が開かれ、16年度の収益事業の受託と、第6回を終了した『庭づくり入門講座』についてそれぞれ担当理事が報告。今後の検討事項として次の4項目を確認し、5時30分閉会した。

- 指定管理者制度に関する研修会開催の提案について、研修部会で検討すること。
- イエメン共和国サナア市で計画されている日本庭園の設計について、国際部会として何らかの協力をする方向で検討すること。(関連記事・P3)
- 泉北工業団地内の埋立完了地(7-3区)における植栽についての研究が提案されたのに対して、緑化部会がこれに対応すること。
- 寄付規定について、次回の常任理事会で具体案を検討すること。

なお、常任理事杭本克彦の辞任による後任に田中明男を選任、他の常任理事は留任とすることに同意、決定した。理事会出席者は次の通り。坂本、崎山、糸谷、荒木、梅原、吉田、藤田、三浦、田中、辻、藤本。

●「指定管理者制度」研修会のご案内●

主　　題：指定管理者制度導入の運用と現状について
日　　時：平成16年12月10日(金)　13：30～17：00
場　　所：ドーンセンター　大阪市中央区大手前1-3-49
受 講 料：会員：5,000円　一般：6,000円
予定講師：荒木美喜男(大阪府土木部公園課参事)
　　飯塚　良一(緑政計画研究所代表取締役)
　　沢田　　進(日比谷アメニス都市緑化事業部営業部長)
　　山本　教夫(前公園緑地管理財団業務部長・日本公園施設業協会専務理事)
受講者予定：50～80人
追　　記：講演会終了後、17時15分より懇親会(4,000円)を予定しておりますので、ご臨席くださいますようお願いいたします。

■ドーンセンター 交通のご案内
- 京阪「天満橋」駅から、東へ徒歩約5分
- 地下鉄「天満橋」駅1番出入口から、東へ徒歩約5分
- JR東西線「大阪城北詰」駅2号出入口から、西へ徒歩約8分

編集後記

- 当センター設立以来、約2年。はじめての会報をお届けします。が、今回は残念ながら緑化・庭園・研修・国際の4部会すべての活動内容はご報告できませんでした。
- 第2号は来年春ごろを予定しており、各部会の活動成果や調査レポートなど、もっと充実したものにしたいと考えています。ご期待ください。(TF)

第1回常任理事会で「寄付規定要領」を決定

9月8日午後3時からセンター事務所で常任理事会が開かれ、「寄付受け入れに関する要領」(案)が承認可決された。感謝状の贈呈については継続審議となった。

その他：吉田常任理事(庭園部会長)の研修部会長兼務、広報紙の年2回発行、会費納入状況の正確な把握と未納の防止、事務局長を藤本理事とすることに決めた。

[センペルセコイア]がご入用の方 当センターへお申し出ください!

- センペルセコイア(C80～120cm, H10～15m)を1本@20万円で斡旋しています。(掘上、積み込み費用込み。圃場渡し)
- 植栽・支柱工事をご希望の場合は工事費@10万円増。(大阪府下は運送費込み)
- お申込み・お問合わせは当センター　事務局藤本まで(TEL / FAX 06-6363-3374)

約300本のセンペルが繁る池田市の圃場。常に手入れされて美しい樹形を保っている

<ご入会の案内>

当センターは都市緑化への協力に努めながら、造園・園芸技術の研究、研修会の開催、自然と環境問題の調査、国際交流の推進などをテーマに活動しています。関心をお持ちの方、趣旨にご賛同の方はぜひ会員としてご参加ください。

	入会金	年会費
個人正会員	10,000円	10,000円
団体正会員	50,000円	30,000円
賛助会員	30,000円	20,000円
友の会	免　除	3,000円

<ご寄付のお願い>

当センターの活動をさらに活性化させるため、広く皆さまのご支援を賜りたく、ご寄付をお願申し上げております。

<団体正会員>

(株)アポック社／大阪造園土木(株)／(株)大阪緑花／(株)環境緑地設計研究所／関西植木(株)／関西造園土木(株)／近鉄造園土木(株)／グリーンスター(株)／向内造園(株)／(株)田中造園土木／(株)庭樹園／東光園緑化(株)関西支店／南海造園土木(株)

NPO法人 国際造園研究センター　〒530-0047 大阪市北区西天満4-5-5(京阪マーキス梅田201)
TEL / FAX：06-6363-3374